

戦争のない明るい世界を

おりづる
平和新聞



発行元/
生活協同組合おかやまコープ
制作協力/
株式会社 山陽新聞社

岡山空しゅう学ぶ

小中学生 戦跡や資料見学

岡山空しゅう（1945年6月29日）をテーマに岡山县内の小中学生が、新聞を作りました。6月28日、岡山城（岡山市北区丸の内）周辺の戦跡をめぐったり、岡山シティミュージアム（同駅元町）の岡山空しゅう展示室を訪れたりして取材し、戦争の悲しさや平和な世界の大切さを感じました。



戦争はおそろしい

岡山空しゅう戦せきめぐりをした。初めに石山公園で、「岡山の戦争と戦災を記録する会」の谷口朋美さんと前田真理子さんが岡山空しゅうの紙しばいをしてくださった。しょういだんがおとされて、岡山は火がもえ広がり、その中をふとんをかぶってにげる人ぞいたと聞いて、おどろいた。重いし、熱いし、どんなにこわかっただろうと思った。岡山城では、焼け跡が残る天守閣の礎石を見た。赤黒い色をしていて、色々な形があった。焼けた後、元と同じようにならばれていて、旧内山下小学校では、大東亜戦争開戦記念ひを見た。てぎをたおすというねがいがこめられてる物なので、敗戦後にアメリカ軍にて、去されないように、文字の上には、メントがぬられて、読めないようになていた。

これまで、戦争の話を読んでも、自分からは遠くはなれたことと思ってたが、本当にあったことなのだと身近に感じた。恐ろしいと思った。

御野小学校4年 信岡里実

今も消えない

戦争のあと

80年前の6月29日、岡山中心に、おそろしい焼いだんが、雨のように降ってきた。まだみんなが眠っている午前2時43分から84分間のできごとだった。

E48集束焼いだんは、ゼリ1状にな、たがソリソと有毒



が黄りんが入、た小型の焼いだんも38本束ねたものだ。他にも、大型のM47焼いだんと合計で9万5708発を落とされたのだ。ぎせい者は、2千人以上ともいわれる。空しゅう後の岡山城には、今も焼けこげた石がぎや、ぽのおで焼かれ、変形したままの木が残っていた。戦争のおそろしさが伝わってきた。平和は当たり前ではない。戦争は、二度と起こしてはいけない。と、多くの人に伝えていきたい。

和気小学校5年 藤原宙

二度とくり返してはいけない

みなさんは岡山城が建て直されたことを知っていますか。

一九四五年（昭和二十年）六月二十九日に、ばくげき機B29が、岡山市内にしよういだんを落としていきました。アメリカ軍がしよういだんを落とす目標とした場所は、今のNTTクレドビル前の交差点の中心です。岡山城は、た、たーばんのこうげきで、やけくずれてしまいました。しかし、月見やぐらと西手やぐらはやけのこりました。昔

岡山城の下にあった、やけたそ石は、今でも赤いままのこっています。

戦後、岡山城は建て直され、今では美しい岡山城が見られます。

わたしは、戦争でひがいにあった岡山城周辺を見て回り、戦争のおそろしさを知りました。戦争は、だれもが悲しむことなので、二度とくり返してはいけないと思いました。お話を聞かせてくださ、た方々に感し、学んだことを活かしていきたいです。

山陽小学校4年 増永朱里



ぼくはおりづる平和新聞を作るために、岡山空しゅうぶの戦跡めぐりをし、岡山シティミュージアムで学芸員さんから空しゅうぶの話聞きしました。今から八十年前の六月二十九日午前二時四十三分から午前四時七分までの八十四分間に落とされた焼く弾が岡山

山の街を焼くつくし、亡くなられた方も多くいました。この時の炎で赤くな、た岡山城の石垣は、今でも見ることが出来ます。そして禁酒会館はバケツリレーを行、た事で、大正時代に建てられたままの状態を残、ています。

また逃げている途中で人を助けようとして焼く弾が直撃して亡くな、た方や、次の日に炊き出しをした婦人会の人達もいたそうです。

今回僕は戦争の怖さを知り、二度としてはいけないと思いました。しかし、大変な中でも助け合う気持ちの大切さを学びました。相手を思うことから平和が始まると思います。

箕島小学校6年 平松伸伍

写真で残る岡山空しゅうぶ

昭和20年6月29日、岡山市はアメリカ軍に約9万5千発のしゅうぶを落とされた。岡山シティミュージアムの岡山空しゅうぶ展示室にはその当時の写真が残、っている。



みんなをまきこむ 悲しな戦争

一九四五年六月二十九日、岡山市では空しゅうぶのうけいほがすくには鳴らなかつた。大阪の司れい部が、岡山には空しゅうぶが来ない、とはんだんしたためた。その結果、多くの人がなくな、てしまった。

岡山空しゅうぶで使われた焼くいだんはゼリー状で、たてものにつくとなかなか落ちず、多くの火事を引き起こした。「岡山の戦争と戦災を記録する会」の前田さんと谷口さんが紙しばいを読んでくれた。

弓削小学校4年 稲森咲日

アメリカ軍が岡山市上空から、た写真は2枚ある。1枚は5月13日(写真上)、もう1枚は空しゅうぶ後の7月5日(写真下)のものだ。建物がほぼなくなり焼け野原になっていることが分かる。当時の市街地の63%が焼けてしま、たことになる。焼け残、た建物は天満屋やゆう便局などの鉄きんコンクリートで作られたものだけだ。た。少なくとも1万7千人が亡くなり、さらに多くの人がやけどやけがをした。長尾小学校5年 竹下睦生



戦争の怖さ、辛さ

私は、空しゅうぶ展示室に行き、親や子供を亡くした方や食べ物がない中でくらし、た方々の辛さが分かりました。お金が無い中でもお米を買、ていたことや、おかげでけがで好きな物が食べられなかつたことも知りました。たべ物の大切さに気づかされ、好ききらいせずに食べようと思、ました。

そして、戦争をしてはだめだと思、ました。戦争のせいで小さい子が亡くな、たり、

しゅうぶで うばおれた いのち

しゅうぶだんのこわさを初めて知、た。ぼくはしゅうぶだんがどれくらいの高さから落ちてくるのかと、しゅうぶだんの大きさについて書きます。

しゅうぶだんは上空約1500メートルで小さなばくだんにあかれて落下してきました。そして、かさせるところは、いまのNTTクレド岡山ビルの前の交差点。はんけい1・2キロメートルでばくは

悪くもない人が亡くな、たりしました。特に生まれ、た赤ちゃんなどは、母乳などが飲めずに苦しんでいて、想像するだけでもかわいそうと思、いました。

展示品を見ると、父や母を亡くした方が多くて、少し怖かつたです。戦争は家族がバラバラになります。二度としないように何が出来るのか考えていきたいです。また、戦争の怖さを多くの人に発信していき、たいです。後楽館中学校1年 平松夕季乃

つを起、しました。このように、しゅうぶだんはばくはつのい力で、家や木などももわたりしてしました。なので、戦争がどれくらいかわかりました。山陽北小学校4年 豊福一翔

